

## 「背骨コンディショニング」誕生ストーリー！

日野秀彦とは・・・？

[背骨コンディショニング](#)が(右 QRL)できるまでをお送りします。

なぜ今の時代にリーゼントヘアーなのか？私の写真を見てまずこう思われたことでしょう。

しかし、このリーゼントヘアーこそが背骨コンディショニングを開発するに至った大切な「キーワード」です。

なぜリーゼントなのか？リーゼントがどうして背骨コンディショニングに繋がるのか

自己紹介はまずそのあたりからはじめていくことにしましょう。

リーゼントスタイルは 18 歳のときに大手フィットネスクラブでアルバイトを始めた頃から一貫して変わることはありません。

私は、北海道札幌で敬虔なクリスチャンの家庭のもとに生まれ 13 歳で洗礼を受けました。

ところがその後 反抗期が訪れ、「シルウェッツ」というロックンロールバンドを組みやがて、館ひろしもメンバーの一人だったことで知られる人気バンド「クルース」の前座を務めるに至りました。

当時はチーマーブーム全盛期。バンドの取り巻きがどんどん増え、それがチームとなり札幌のチーマーの草分け的存在にまで発展していきました。

フィットネスクラブではアルバイトをしながらトレーニングを必死に行いました。

というのも実は仕事のためではなく自分のために。

当時チーム同士の抗争に巻き込まれ、家の車は何者かに壊されアルバイトをしていた店舗には脅迫電話がかかってくる毎日・・・

このままでは油断をしていたら本当に殺されるのではないかと思ったからです。

命を狙われる危機に直面して、文字通り「必死」で体を鍛えようと思いました。

ところが、あまりに必死にトレーニングに取り組み、とことん身体のことを知ろうと、トレーニング理論運動生理学・栄養学を真剣に学ぶ姿勢が皮肉なことにそのフィットネスクラブの上司に認められるようになり、アルバイトにも関わらずスタッフ研修を行う立場になっていました。

アルバイトとして 7 年間働き正社員として採用された後も、アルバイト時代の姿勢や実績が認められ入社後すぐに部門の長を複数任されます。

そして、勢いは止まることなくどんどん出世し、ついにはプログラムディレクターとなりエクササイズプログラムの開発に携わることになりました。

国内外の様々なプログラムを研究し、新しい運動プログラム開発にあたりました。

しかし、当時の日本のフィットネスは海外からプログラムを輸入し、少しか日本向けに



アレンジをして国内に導入という流れになっておりその実情にやるせなさが募る時間を過ごしました。

特に年々ニーズが高まる不定愁訴を改善するプログラムでは満足のいくものを開発できず、会社組織や風習によって動きづらさを感じ「独立しよう」という気持ちが芽生えるようになりました。

「フィットネス業界でこんなにも認められ、様々なポジションも経験してきた。独立して、新しい仕組みを作ろう。私なら絶対にうまくいく。」

決意した私はすぐに会社を辞め、独立して事業を立ち上げました。

独立してまずは、北海道などの地方ではフィットネスが浸透していなかったのでインストラクターを派遣する仕事をしたり、アメリカ西海岸のフィットネスウェアの輸入販売を行いました。

他にも思いつく様々な仕事をしましたが、やることすべてが途中、良いところまで行くのですが、なぜか最後の最後の段階でことごとく失敗に終わります。

今思うと、どれかひとつでもうまくいっていたら私はフィットネスウェアの会社をやっていたかもしれません。

事業がうまくいかないため、しばらく離れていた教会にも時々出席するようになりました。困ったときの神頼み。

ご利益的に「仕事がうまくいきますように」と・・・しかし、少しばかりのお金を稼ぐために急な仕事が入ると教会を休みがちになります。

目先のことにとらわれ、仕事もみるみるうちに立ちゆかなくなりどんどん生活が追いつめられていきました。

そして、やがて貯金が尽き、売れる家財道具はすべて売りました。

無理して朝晩通して働いていたツケで身体を壊し、仕事ができない状態になりました。

貯金もなく働けないために、当然の如く、借金生活が始まりました。

最初は数社だった借金ももともと働けないので返せるはずもなくはじめの借金や利息を返すためにまた借金をして、そしてその借金をするためにまた借金・・・

気がつけば多重債務者として全く身動きの取れない状態にまでなっていました。

そうなるともうドラマなど見る状況が現実のものとなりました。

借金取りが何人も家へ押しかけてきます。

ご存知ですか？

借金取りは朝の8時から夜9時までしか取り立てをしてはいけないのです。

その間は、ひっきりなしに玄関には取り立て屋が、電話も借金先からガンガンかかってきます。

息を潜めて時間が経つのを待ち、夜の9時になり今日の取り立て時間が終わると、やっとほ

っとするというような毎日を過ごしました。

本当に生きた心地がしなく惨めな日々でした。

あまりのひどい生活っぷりに、ある時は、借金取りの一人が見るに見かねて昼ごはんをおごってくれたこともありました。

自分ではもう何とかできない状況でしたので、藁にもすがる思いで、意を決して生活保護の申請に行きました。

バスに乗るお金もないので何とか歩いてようやくたどり着いた役所で思いもよらないことを言われました。

「この役所まで歩いて来れたということは、まだ動けるでしょう なら、働きなさい」・・・生活保護の申請すらさせてもらえませんでした。

経済状況、健康状態は更に悪化し、気力も底をつき、ただただ呆然と借金取りから 身を潜める日々。

まさにどうしても這い上がれないどん底でした。

「こんなに苦しめる神なら神様なんていない！」

窮地の中で暴言を吐きました。すると、神が語りかけてきました。

幻聴ではなくはっきりと

「そう言うのであれば、いままでの神との関係はどうなのだ」

という語りかけがあり

それに続き

「神の言葉に耳を傾けているか聖書を読んでいるか？」

・・・いいえ、まともに通読した事ありません。

「では読みなさい」と具体的に示されました。

次に「礼拝に出ているか？」「喜んで神を礼拝しているか？」というように、導かれていきました。

そのうちに今まで断片的に読んでた聖書の言葉は生きている神様の言葉として

心に入ってくるようになってきました

「空の鳥をよく見なさい。種も蒔かず、刈り入れもせず、倉に納めもしない。だが、あなたがたの天の父は鳥を養ってくださる。あなたがたは、鳥よりも価値のあるものではないか。」

「人は、たとえ全世界を手に入れても、自分の命を失ったら、何の得があろうか。」

この言葉で

「自分は愛されている。背を向けていた時でも一方的に愛してくれている」とわかりました。ずさんでいた心が愛により修復された瞬間でした。

また必要なもの、命も着るもの、食べるもの、仕事も全てが神様から与えられている。

自分は生かされているんだという事がわかりました。

そして、こんな少しの金を稼ぐ為に礼拝もいかず働いてたなどの反省の思いと

振り返れば自分中心の行動ばかりで、神や周りの人に感謝した事もなかったことにも気づき心からの感謝の気持ちがわいてきて（今でも思い出せないのですが）なぜかそのとき財布に入っていた1万円をけなしのすべての財産を教会に献金しました。

すると、そこからすべてが一転しました。

聖書の中より、手を当てて人を癒やす方法が目にとまりました。

これ、私にもできるかもしれないという思いが溢れ、長年腰痛に悩む知人の腰に手を置いたところ仙骨が動く感覚を得ました。

そこから以前から勉強してきた身体の仕組みに沿って手技で骨を調整することを試み、不具合を解消するために考えた体操をやらせようとその場で腰痛が改善されていきました。

その出来事が知りあいに口コミで広がり、ある人の家に行って体操指導しているとその人が次は近所の別の人のところに行くように連絡をつけてくれていて、それが次の家でも・・・というように一日に何件も不定愁訴を抱えた人のところを回るようになりました。

それは日に日に増えて、不定愁訴を抱える人が私のもとに出張依頼をして頂けるようになり、朝でかけると夜遅くまで不具合を抱えた人を診て回りました。

気付くと、その1ヶ月間で70万円以上の収入になっていました。

先月は、その日食べるものにも困っていたのに・・・

そして収入よりも何より「どうしようもなかった」、「何もできなかった」私が「人様のお役に立っている」、「皆さんに喜んでもらっている」、ということが、何よりもうれしく、やっと、生きている時間を取り戻しました。

これが背骨コンディショニングがこの世に誕生したストーリーです。

そこからは体に不具合がある人や長年の痛みを耐えている方の苦しみを取る方法を日夜研究し実践として日々施術と体操で取り除き、自分のためではなく、困っているみなさんを笑顔にすることをモットーに日々の活動を続けています